

ファッション部通信

2024年12月27日(金)
みなと総合高等学校
ファッション部
顧問: 會田祥子

年の瀬の、寒さが身にしみる季節となりました。ファッション部の皆様いかがお過ごしでしょうか？
本年もファッション部の活動へ、ご理解とご協力を賜りましてありがとうございました。

古布工場へ見学に行ってきました！



2024年12月19日(木)に、ファッション部の希望者で、秦野市にある、ナカノ株式会社の古布工場へ見学に行ってきました。こちらの工場では、回収した古着をアジアの国々へ輸出したり、ウエスや反毛に再利用したりすることで、誰かにとっては不必要なものを、必要としている他の誰かへと繋いでいく活動を行っています。実際に車の内装に使われていたり、軍手に姿を変えたりしているとお聞きして、新しい発見もありました。

見学の最後には、3月に行われます、「かんきょう文化祭」の衣装作りのためにと、いくつかの古着をいただき、衣類の可能性を感じるバトンをしっかりと受け取りました。見学に行った部員たちの感想を一部ご紹介いたします。

分別作業を手作業で人が行なっていると知り驚きました。状態の良い古着はそのまま海外に送られると知り、状態がいいけれど着なくなった服は捨てるのではなく、リサイクルに出したいと思いました。(H.Mさん)

実際に工場の様子を見て、一工程を数人で、もしくは1人でやっていてどんどん次の人たちに繋いでいっているような感じがしました。一見、1人1人が黙々と作業をしているようにも感じましたが、バトンを繋いでいるようで、結構連携プレーだなと思いました！(M.Tさん)

自分たちの古着がどこに行くか、どんなふうに使われるかを詳しく説明していただいてとても勉強になりました。とくに、反毛が車のシートに使われていたり、防音機能があったりと知っておどろきました。(S.Yさん)

工場の選別の様子を見ると思っていたよりも機械の出番が少なく力のいる作業が多く驚きました。現状では人にあげられるくらい綺麗な衣服しか回収することができずリサイクルではなくリユースの状態であると聞き何か地球のためにできることがないか考えさせられました。(M.Tさん)

衣服として使われていたものが自分の身近で意外なところに生まれ変わっていると知って、驚きました。まだ完全なリサイクルにはなっていないと聞いて、まずは自分で本当に必要なものだけ買う、まだ着られるように工夫をするなど衣類ごみの数そのものから減らしていけたらいいと感じました。(E.Wさん)

お知らせ

2025年3月末の週末に、みなとみらい駅にて開催されます、「かんきょう文化祭」へ、今年度も参加する運びとなりました。詳しい内容については、また改めてご連絡いたします。



最後になりますが、皆様がよい年を迎えられることを、心より祈念しております。しっかりと心身を休ませて、新年に元気な姿でお会いできることを心待ちにしております。